



部門別事業報告

Ⅶ 環境調査

Ⅷ 母子保健

Ⅸ 健康支援

X 結核予防

XI 諸行事

環境調査

作業環境測定は有害物質の濃度や有害エネルギーなどの物理量を測定し作業環境の評価を行うもので、環境改善のための工学的対策を講ずるための重要な情報となる。種々の有害要因を減少させ、作業環境を適正に保ち、働く人々の健康障害を防止するための作業環境管理の基本となるものである。また、公共の建築物や学校などにおける揮発性有機化合物等の測定やダニ又はアレルゲン検査、公衆浴場などのレジオネラ属菌検査は化学物質や細菌等により健康を害することがないように管理が求められている。

■実施状況

平成23年3月の東日本大震災により、作業環境測定が一時的に減少したが、年間の測定件数は前年とほぼ同じである。作業環境測定（労働安全衛生法第65条によるもの又は準ずる測定）を実施した事業場は延べ426事業場（前年466）であった。延単位作業場所は1,435箇所（前年1,555）で、その管理区分の内訳は、第1管理区分（作業環境管理が適切である）が1,027箇所（71.6%）、第2管理区分（作業環境管理になお改善の余地がある）が187箇所（13.0%）、第3管理区分（作業環境管理が適切でない）が221箇所（15.4%）である。第2・第3管理区分を併せた408箇所（28.4%）は、作業方法の改善や工学的対策などの作業環境改善が必要となる。

測定項目別にみると、粉じん、特定化学物質及び騒音の第2・第3管理区分の割合が高くなっている。労働安全衛生法第65条によらない測定（管理濃度等が設定されていない物質、環境改善のための測定や検査など、評価基準による評価をしない測定）があり、その他の項目としての件数は241件で昨年より69件増加した（以上表1、表2）。

作業環境測定以外の環境測定では、学校及び公共施設の室内空気環境中の揮発性有機化合物（VOC）の測定、公衆浴場等のレジオネラ属菌検査を実施した（表3）。

■作業環境測定において実施している主な採取・分析方法

対象項目	採取方法	分析方法
有機溶剤	固体捕集法	ガスクロマトグラフ法
	検知管法	
粉じん	相対濃度指示方法	
	ろ過捕集法	重量分析法
金属	ろ過捕集法	原子吸光光度法
	液体捕集法	
特定化学物質	ろ過捕集法	重量分析法、液体クロマトグラフ法
	検知管法	
	液体捕集法	吸光光度法

■管理区分と管理区分に応じた講ずべき措置

(安衛法第65条の2第1項)

管理区分	作業場の状態	講ずべき措置
第1管理区分	当該単位作業場所のほとんど(95%以上)の場所で気中有害物質の濃度が管理濃度を超えない状態	現在の管理の継続的維持に努める
第2管理区分	当該単位作業場所の気中有害物平均が管理濃度を超えない状態	施設、設備、作業工程又は作業方法の点検を行い、その結果に基づき、作業環境を改善するため必要な措置を講ずるよう努める
第3管理区分	当該単位作業場所の気中有害物質平均が管理濃度を超える状態	①施設、設備、作業工程又は作業方法の点検を行い、その結果に基づき、作業環境を改善するため必要な措置を講ずる ②有効な呼吸用保護具の使用 ③健康診断の実施その他労働者の健康の保持を図るため必要な措置を講ずる

表1 測定件数・項目別事業場数・単位作業場所数

区分 (測定項目)	測定件数 *1	測定実施事業場 延数*2	延単位作業場 所数*3	延単位作業場所の管理区分内訳(割合%)*4		
				第1管理区分	第2管理区分	第3管理区分
計	12,429	426	1,435	1,027 (71.6)	187 (13.0)	221 (15.4)
粉じん(石綿を除く)	4,331	143	401	276 (68.8)	38 (9.5)	87 (21.7)
特定化学物質	1,065	106	162	123 (75.9)	13 (8.0)	26 (16.0)
金属	388	28	57	46 (80.7)	9 (15.8)	2 (3.5)
鉛	80	9	13	13 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
有機溶剤	4,416	264	652	529 (81.1)	74 (11.3)	49 (7.5)
騒音	1,908	40	150	40 (26.7)	53 (35.3)	57 (38.0)
その他*5	241	28				

*1: 作業環境測定の結果の評価等に用いた測定点総数

*2: 測定項目ごとの実施事業場延数(総数は1項目以上の実施事業場延数。ただし、その他の項目を除く)

*3: 作業環境測定結果の評価を実施した延単位作業場所の項目ごとの場所数(単位作業場所: 作業環境測定結果の及ぶ範囲)

*4: 各項目における管理区分ごとの単位作業場所数及び割合(割合は計算上、合計が100%にならない場合がある)

*5: 作業環境測定であるが、結果の評価を実施しなかった測定の総件数及び事業場延数(分析のみの測定を含む)

表2 作業環境測定以外の環境測定実績

名称	根拠となる法令等	物質名等	測定件数
計			317
揮発性有機化合物(VOC)の室内空気環境測定	官庁営繕部における平成15年度からのホルムアルデヒド等の室内空気中の化学物質の抑制に関する措置について	ホルムアルデヒド, アセトアルデヒド, トルエン, キシレン, エチルベンゼン, スチレン	71
室内空気環境中の石綿測定	学校衛生環境の基準	ホルムアルデヒド, トルエン, キシレン, p-ジクロロベンゼン	185
ダニまたはダニアレルゲン検査	学校衛生環境の基準	石綿粉じん	4
レジオネラ属菌検査	公衆浴場法および同法施行条例, 旅館業法および同法施行条例に基づく検査	浴槽水中のレジオネラ属菌	42
			15

母子保健

赤ちゃんの病気の中には、新生児期のうちに発見し治療を行うことで心身障害の発症を防止し、命の危険を回避することができるものがある。当協会では、岩手県の委託を受け6つの病気を対象とした先天性代謝異常検査の実施と、岩手県医師会の委託を受けて胆道閉鎖症マススクリーニング検査結果の集計を行っている。いずれも早期発見・早期治療を目的としたものである。

1. 先天性代謝異常検査

■実施状況

平成23年2月からタンデムマス検査が新規導入され、アミノ酸代謝異常検査に加え有機酸代謝異常検査、脂肪酸代謝異常検査が開始された。またアミノ酸代謝異常検査は従来から対象のフェニルケトン尿症、メープルシロップ尿症、ホモシスチン尿症に、新たにシトルリン血症1型、アルギノコハク酸尿症、シトルリン欠損症が対象疾患に加わった。

平成22年度の先天性代謝異常検査受診者数は、タンデムマス導入後（H23年2～3月）の受診者数1,620名を含む10,819名であった。再採血（2回目）、再々採血（3回目）、再々々採血（4回目）の検査人数は順に490名、47名、2名であった。精密検査対象者数は75名（0.69%）で、内訳はアミノ酸代謝異常1名、ガラクトース血症12名、先天性甲状腺機能低下症20名、先天性副腎過形成症11名、アミノ酸代謝異常とガラクトース血症の複数項目が2名、先天性甲状腺機能低下症と先天性副腎過形成症の複数項目が10名であ

た。当会では再採血（2回目）以降の検体についても再検対象項目に関わらず、初回採血同様に全項目検査を実施している。その結果アミノ酸代謝異常検査が2名、先天性甲状腺機能低下症検査が10名と合わせて12名が精密検査対象となった。

■検査方法

生後4～6日の間に足の裏（踵）から極少量の血液を採取し、アミノ酸代謝異常であるフェニルケトン尿症・楓糖尿症・ホモシスチン尿症とガラクトース血症、先天性副腎過形成症、先天性甲状腺機能低下症の6つの病気について次の方法によって検査を実施した。

アミノ酸代謝異常：高速液体クロマトグラフィー
 ガラクトース血症：ガラクトース脱水素酵素・マイクロプレート法
 先天性副腎過形成症：酵素免疫測定法
 先天性甲状腺機能低下症：酵素免疫測定法

表1 検査成績

注）アミノ酸代謝異常症の検査方法 [4～1月：HPLC法、2～3月：タンデムマス法]（ ）内は%

初回採血	内訳	初回採血検体検査人数 10,819名 2～3月 1,620名				
		アミノ酸代謝異常症	ガラクトース血症	先天性甲状腺機能低下症	先天性副腎過形成症	有機酸・脂肪酸代謝異常症
初回	正常	10,813(99.94)	10,696(98.86)	10,738(99.25)	10,690(98.81)	1,614(99.63)
	要再採血	5(0.05)	130(1.20)	75(0.69)	137(1.27)	6(0.37)
(1回目)	要精密検査	1(0.01)	3(0.03)	7(0.06)	1(0.01)	0(0.00)
再採血	正常	5(0.05)	113(1.04)	69(0.64)	109(1.01)	5(0.31)
	要再採血	0(0.00) ※ [2]	0	0 ※ [38]	12(0.11) ※ [5]	1(0.06) ※ [1]
(2回目)	要精密検査	0(0.00) ※ [2]	11(0.10)	6(0.06) ※ [9]	14(0.13)	0(0.00)
再々採血	正常	2(0.02)	0(0.00)	17(0.16)	13(0.12)	1(0.06)
	要再採血	0	0	2(0.02) ※ [1]	0	0
(3回目)	要精密検査	0	0	15(15.11) ※ [1]	6(0.06)	0
再々々採血	正常	0	0	0	0	0
	要再採血	0	0	0	0	0
(4回目)	要精密検査	0	0	2(0.02)	0	0

※ [] : 2回目以降の検査で全項目の検査を実施することで、新たに所見のあった人数

【追跡調査結果】

精密検査対象者75名について医療機関に診断名等を追跡調査したところ、46名の回答を得た。
 診断結果を以下の表に示す。内、平成23年10月現在、フェニルケトン尿症1名（0.009%）が発見された。

診 断 名	件 数
フェニルケトン尿症	1
ガラクトース血症 暫定	1
一過性ガラクトース血症	2
先天性甲状腺機能低下症（クレチン症）暫定	2
先天性甲状腺機能低下症（クレチン症）疑い	1
一過性甲状腺機能低下症	8
一過性甲状腺機能低下症（母親がバセドウ病によるもの）	1
クレチン症疑い・副腎過形成症疑陽性（低体重児による一過性）	3
一過性甲状腺機能低下症・副腎過形成症疑陽性（低体重児による一過性）	8
副腎過形成症疑陽性（低体重児による一過性）	4
超出生低体重児	2
死亡	1
その他	1
正常	11
計	46

2. 胆道閉鎖症マスキング検査

■実施状況

乳児1カ月健診時、母子手帳に綴じ込みの便カラーカードへ保護者が便色調の番号を記入し提出する。1カ月健診担当医は便色を確認し、便色調の番号が「1」「2」「3」の場合、1次スクリーニング陽性となり2次スクリーニングを実施、さらに必要に応じて3次スクリーニング実施へとすすんでいく。

平成22年度は出生児9,658名に対し8,718名(90.3%)が検査を実施、1次スクリーニング陽性者は19名(0.21%)であった。2次スクリーニングの

結果は以下の表のとおりで、胆道閉鎖症を疑い3次スクリーニングの対象となった乳児はいなかった。

■検査方法

保護者の方が便の色を調べ、見本の色調と比較して用紙に記入、1ヶ月健診の際に担当医師へ提出する。健診医により記載された色調を確認し、スクリーニングを実施する。

【検査成績】

()内は%

出生児数	9,658
検査人数	8,718 (90.3)
1次スクリーニング陽性者	19 (0.21)
2次スクリーニング結果	・異常なし <12> ・新生児肝炎 <2> ・遷延性黄疸 <2>
<人数>	・結果記載なし <1> ・新生児胆汁うっ滞 <1> ・確認中 <1>
3次スクリーニング対象者	0

健康支援

1. 健診の事後措置

■集団健診の対応

各団体が主催する事後指導会で、健診の結果説明の依頼を受け対応した。
平成22年度の依頼数は、33団体、156回であった。

表1 団体内訳

団体	団体数	回数
計	33	156
市町村	3	24
事業所	28	129
学校	2	3

表2 職種・部門別内訳

職種	地域部門	産業部門	学校部門
計	24	129	3
保健師	14	51	3
管理栄養士	10	32	0
健康運動指導士	0	21	0
臨床心理士	0	25	0

■一日人間ドックの対応

診察終了後、保健師・管理栄養士による個別相談を実施した。
平成22年度実施数は、保健指導8,223名、栄養指導8,039名であった。ミニ栄養講話も実施した。

■レディースドックの対応

診察終了後、保健師・管理栄養士による個別相談を実施した。
平成22年度実施数は138名であった。

■専門ドックの対応

受診後日、結果説明来協にあわせて希望者へ、保健師・管理栄養士による個別相談を実施した。
平成22年度実施数は、保健指導95名、栄養指導47名であった。

■労災保険二次健康診断の対応

二次健康診断対象者へ保健指導を実施した。
平成22年度実施数は415名であった。

2. 定期健康相談事業

事業所が職員の健康管理や健康教育のため、外部の専門機関に保健師派遣を委託する。当協会はその受け皿として事業所と委託契約を締結し、保健師を定期的に派遣している。
平成22年度、4団体へ計44回派遣した。

【事業内容】

- ・事業所職員の健康管理、健康教育
- ・日常の健康相談、保健指導
- ・健康診断の事後措置
- ・必要に応じ職場の巡回、環境管理のためのアドバイス、衛生委員会への参加など、産業医、事業主、衛生管理者等と密接な連携のもとに行う。

3. 相談員派遣

岩手産業保健推進センターにおける産業保健相談業務（産業衛生工学）の相談員として、平成21年度は33回派遣した。

4. 電話相談

当協会で開催している健康診断結果・検査等に関する相談や地域医療機関への情報提供等 570件の電話相談に対応した。

表 団体内訳

団体	件数	主な内容
計	570	
市町村	237	結果の意味・受診医療機関の選択
事業所	314	結果の意味・受診医療機関の選択
学校	19	結果の意味

5. 講演会講師派遣

平成22年度の派遣協力は、26団体152回であった。テーマは、「メタボリックシンドロームの予防」が中心であった。

表1 団体内訳

団体	団体数	回数	主なテーマ
計	26	152	
市町村	7	40	ウォーキング・メタボリックシンドロームの予防
事業所	18	110	作業環境管理・運動の必要性・メタボリックシンドロームの予防
学校	1	2	卒業後も健康な生活をするために

表2 職種別内訳

職種	人		
	地域部門	産業部門	学校部門
計	40	110	2
保健師	1	12	0
管理栄養士	0	6	2
健康運動指導士	38	14	0
臨床心理士	0	45	0
労働衛生コンサルタント	0	33	0
その他	1	0	0

6. 特定保健指導

平成22年度より開始された特定保健指導の初回面接実施団体は、23団体であった。実施人数は、動機付け支援919人、積極的支援1,412人、合わせて2,331人であった。

区 分	初回面接実施人数
計	2,331
動機付け支援	919
積極的支援	1,412

7. 諸催事の協力

平成21年度催事への協力は、12団体51回であった。

団 体	団体数	回 数	主な内容
計	12	51	
市 町 村	0	0	
事 業 所	12	51	体力測定等

8. 乳房自己検診法指導

この指導は、乳房の模型を用いて「シコリ」に触れ、自分で見つけることができることを実際に体験させるものである。月1回の自己検診が、乳がんの早期発見に結びつくことを受診者に理解いただくため、乳がん検診の待ち時間等を利用して行っている。平成22年度は、3団体へ27回指導した。その他に、一日人間ドック受診時に昼の空き時間を利用して、乳房自己検診法を指導している。

9. 研修会等開催

健康教育研究会、VDT作業管理者講習会、基本健康診査従事者講習会および健康教育セミナーを開催した。詳細は次項『諸行事』『研修会等の開催』参照。

10. 健康げんき倶楽部

会員制のヘルスサポートシステムで、健康度評価・血液検査後、保健師・管理栄養士・運動指導士による健康づくりを全面的にサポートしている。会員は、トレーニング施設「気良楽（きらら）」の利用が可能である。平成23年3月現在の会員数は112名である。

結核予防

1. 検診事業

部門別事業報告（学校保健・地域保健・産業保健）に記載

2. 複十字シール運動の展開

複十字シール運動は結核対策事業資金造成のための募金活動である。当協会ではNPO法人岩手県地域婦人団体協議会と共同で運動を展開

運動期間：平成22年8月1日～12月31日

後援：岩手県、岩手県議会、岩手県市長会、岩手県市議会議長会、岩手県町村会、岩手県町村議会議長会、岩手県保健所長会、岩手県教育委員会、岩手県PTA連合会、岩手県医師会、岩手県歯科医師会、岩手県薬剤師会、岩手県看護協会、岩手県放射線技師会、岩手県臨床衛生検査技師会、J A岩手県五連（J A岩手県中央会、J A岩手県信連、J A岩手県厚生連、J A全農いわて、J A共済連岩手）、岩手県国民健康保険団体連合会、岩手労働基準協会、岩手日報社、IBC岩手放送、テレビ岩手、岩手めんこいテレビ、岩手朝日テレビ、エフエム岩手、NHK盛岡放送局、岩手県栄養士会

実績：	大型シール	652枚（ 505枚）	※（ ）内は21年度実績
	小型シール	30,600枚（ 27,875枚）	
	募金総額	3,573,612円（3,432,346円）	
	うち岩手県地域婦人団体協議会の実績	2,556,500円（2,609,000円）	

3. 普及啓発および広報活動

■平成22年度結核予防街頭キャンペーン

「盛岡市保健所フェスタ2010」（盛岡市主催）で同時実施

日時：平成22年10月2日（土）

場所：盛岡市保健所

協力：NPO法人岩手県地域婦人団体協議会、盛岡市地域女性団体協議会

内容：複十字シール募金、普及啓発グッズ（パンフレット、オリジナルポケットティッシュ・メモ帳・風船等）の配布

■ポスター・チラシ等の配布

配布場所：市町村、教育委員会、保健所、県立病院、公共施設など

■広報誌の配布

『健康いわて』（第252号～第257号）（財団法人岩手県予防医学協会発行） 隔月 3,000部

『複十字』（No.333～338）（公益財団法人結核予防会発行） 隔月 400部

『健康の輪』（全国結核予防婦人団体連絡協議会発行）年3回 110部

4. 各種会議、研修事業へ参加

〔開催日、開催地、参加人数〕

■結核予防会放射線学科研修夏期コース	〔平成22年8月19～20日、東京都、1名〕
■東北地区結核予防婦人団体幹部研修会	〔平成22年11月18～19日、福島市、2名〕
■結核予防会東北・北海道ブロック会議	〔平成22年9月30日、秋田市、4名〕
■平成22年度複十字シール運動担当者会議	〔平成22年12月7日、東京都、2名〕
■結核予防会臨時全国支部事務局長会議	〔平成22年10月13日、東京都、2名〕
■結核予防会全国支部事務局長会議	〔平成23年2月24～25日、東京都、1名〕
■診療放射線技師研修会	〔平成23年3月9～11日、東京都、1名〕

諸行事

1. 理事会、評議員会、監事会等の開催

[開催日]

(1) 理事会

■第1回理事会

[平成22年4月9日]

役員（理事・監事）の選任について報告された。会長・専務理事・常務理事の選任、常勤役員報酬、公益財団法人移行後の最初の評議員推薦について審議、議決された。

■第2回理事会

[平成22年6月11日]

役員（評議員）の選任、公益財団法人移行後の最初の評議員について評議員選定委員会の結果が報告された。平成21年度事業報告、平成21年度決算報告、公益認定に係る申請骨子、公益認定申請へ向けた定款の変更案、公益認定移行後の代表理事・業務執行理事の選定、役員に対する報酬等の支払規程・旅費規程について審議、議決された。公益財団法人移行後の最初の評議員の選任方法、評議員選定委員会運営規則について審議、議決された。

■第3回理事会

[平成23年3月18日]

公益財団法人移行申請について報告された。平成22年度収支補正予算（案）、平成23年度事業計画（案）、平成23年度収支予算（案）、常勤役員報酬、評議員の推薦について審議、議決され、新規事業及び新施設構想（案）については継続審議とされた。

(2) 評議員会

■第1回評議員会

[平成22年6月10日]

公益財団法人移行後の最初の評議員について評議員選定委員会の結果が報告された。平成21年度事業報告、平成21年度決算報告、公益認定に係る申請骨子、公益認定申請へ向けた定款の変更案、公益認定移行後の理事・監事の選任、役員に対する報酬等の支払規程・旅費規程について審議、承認された。

■第2回評議員会

[平成23年3月16日]

公益財団法人移行申請、評議員の任期について報告された。平成22年度収支補正予算（案）、平成23年度事業計画（案）、平成23年度収支予算（案）、新規事業及び新施設構想（案）について審議、承認された。

(3) 監事会

■第1回監事会

[平成22年5月24日]

組織運営、平成21年度事業報告書、決算報告書について監査を受け、適正であることを認められた。法人の財産状況、理事の業務執行状況について監査を受け、不備がないことを認められた。

■第2回監事会

[平成22年11月25日]

平成22年度上半期組織運営、予算執行状況、事業進捗状況について定期監査を受け、適正かつ順調であることを認められた。法人の財産の状況、理事の業務執行状況について定期監査を受け、不備がないことを認められた。

(4) 評議員選定委員会

■第1回評議員選定委員会

[平成22年6月2日]

公益法人制度改革の概要について説明された。公益財団法人移行後の最初の評議員選任について審議、議決された。

2. 学術専門委員会、小委員会の開催

[開催日]

(1) 学術専門委員会

■先天性代謝異常検査等専門委員会

[平成22年10月12日]

■ウイルス肝炎対策専門委員会

[平成22年11月27日]

■循環器系検診専門委員会	[平成23年2月24日]
■消化器系検診専門委員会	[平成23年3月1日]
■学校保健専門委員会	[平成22年6月28日]
(2) 小委員会	
■脳ドック小委員会	[平成22年7月20日]
■C R 検診小委員会	[平成23年3月10日]
■C T 検診小委員会	[平成23年3月10日]

3. 関係機関担当者会議の開催

[開催日、開催地、参加人数]

(1) 学校保健関係

■平成22年度学校保健連絡会議	[平成22年12月2日、盛岡市、140人]
講演：「岩手県における脊柱側弯症診療の現状と問題点」	
講師 岩手医科大学整形外科学講座	准教授 山崎 健
「心臓病と学校生活」	
講師 岩手医科大学小児心臓学講座	教授 小山 耕太郎
報告事項：平成21年度学校保健分野健診・検査実施状況 貧血検査判定基準について	
協議事項：平成23年度学校保健事業計画骨子（案） 平成23年度変更事項	

(2) 地域保健関係

■平成22年度市町村健康推進担当部課長会議	[平成22年10月27日、盛岡市、105人]
行政報告：「タンデムマスクリーニングについて」	
岩手県保健福祉部児童家庭課	主査 和田 英子
「岩手県における肝炎対策について」	
岩手県保健福祉部医療推進課	感染症担当課長 五日市 治
「特定健康診査・特定保健指導について」	
岩手県保健福祉部健康国保課	主査 右田 周平
事業説明：心電図・眼底検査の勧め 呼吸機能検査とCOPD 特定保健指導	
報告事項：平成21年度健診・検査実施状況 平成21年度住民健診有所見率 平成22年度健診・検査実施及び予約状況 平成23年度事業計画について ・地域保健事業計画骨子（案） ・変更事項について	
講演：「肺癌画像診断における病変強調法としての経時的差分画像の役割」	
講師 岩手県立中央病院副院長（兼）放射線診断科長 佐々木 康夫	

■平成22年度保健活動検討会	[平成23年2月24日、盛岡市、150人]
報告事項：平成21年度健診結果・追跡調査結果	

平成22年度健診・検査実施状況
 平成23年度地域保健事業計画骨子
 変更事項について
 胸部C R 検診実施状況報告
 肝炎ウイルス検診後の課題について

行政報告：「健康増進事業等について」

岩手県保健福祉部健康国保課 主 査 右 田 周 平

講 演：「特定健診・特定保健指導の現状と課題」
 ～市町村国保における実施状況から～

講 師：福島県立医科大学医学部公衆衛生学講座

教 授 安 村 誠 司

パネルディスカッション：「特定健診の受診率向上を目指して」

助言者：福島県立医科大学医学部公衆衛生学講座

教 授 安 村 誠 司

報告者：紫波町生活部町民課

主 任 高 橋 忠 子

洋野町健康増進課

主任保健師 金 澤 保 子

岩手町健康福祉課

保健師長 澤 口 利 江

座 長：岩手県予防医学協会 企画管理部

次 長 米 澤 慎 悦

4. 研修会・講演会等の開催

[開催日、開催地、参加人数]

(1) 第26回健康教育研究会の開催 [平成22年7月28日、盛岡市、80名]

テ ー マ：「ほめて伸ばす コミュニケーションスキル」

ビィハイブ 谷 口 祥 子

(2) 労働衛生教育研修会 [平成22年7月7日、盛岡市、16名]

■VDT作業管理者研修会

内 容：「管理者の役割と心構え」「労働衛生管理の概論」

財団法人岩手県予防医学協会 阿 部 千 恵 子

「VDT作業の健康への影響と健康管理」

岩手大学保健管理センター 教 授 立 身 政 信

「作業環境管理・作業管理」「VDT機器及び作業環境の維持管理」

岩手県予防医学協会 港 真 里

「VDT作業従事者に対する労働衛生教育の方法」

財団法人岩手県予防医学協会 高 橋 る り 子

(3) 特定健康診査等従事者指導講習会 [平成23年2月8日、盛岡市、59人]

講義・実習：「顕微鏡の基礎知識と観察法およびメンテナンス方法」

オリンパス株式会社仙台営業グループ 石 井 雄 彦

講 演：「腎機能検査と最近の話題」

シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス株式会社

小 坂 光 郎

櫻 井 大 路

「尿異常と慢性腎疾患」

岩手県立中央病院腎臓内科

相 馬 淳

(4) 学術講演会

■女性のための健康講座『乳がんには負けないために』

[平成22年11月13日、大船渡市、86人]

講 演：「乳がん検診と薬物療法について」

岩手県立胆沢病院 乳腺外科長 竹 花 教

■肝疾患診療ネットワーク研修会

[平成22年11月27日、盛岡市、76人]

講 演：「岩手県における医療助成制度の現況」

講 師 岩手県保健福祉部医療推進課

感染症担当 高 橋 愛

「C型慢性肝炎治療における最近の話題」

講 師 岩手医科大学内科学講座消化器・肝臓内科分野

助教 宮 坂 昭 生

特別講演：「肝炎総合対策の現状と話題～今、何をなすべきか？」

講 師 独立行政法人国立国際医療研究センター

肝炎情報センター長 正 木 尚 彦

(5) 第15回医用超音波基礎講習会

[平成23年1月9日、盛岡市、57人]

講 師 東芝メディカルシステムズ株式会社

鈴 木 信 行

5. 普及啓発および広報活動（再掲）

■普及啓発

結核予防週間における街頭キャンペーン、新聞広告掲載、市町村健康まつりへの協力
ポスター・チラシ等の配布

■広報誌の配布

『健康いわて』（第252号～第257号）（財団法人岩手県予防医学協会発行） 隔月 3,000部

『複十字』（No.333～338）

（公益財団法人結核予防会発行）

隔月 400部

『健康の輪』（全国結核予防婦人団体連絡協議会発行）

年3回 110部

6. 職員研修

[実施回数、参加人数]

■内部研修会の実施

交通安全講習会 (新人職員、新採用臨時職員) [2回、50名]

安全運転講習会 (本所にて) [2回、321名]

(県南センターにて) [2回、144名]

個人情報保護に関する対応研修会 [1回、46名]

新人職員マナー研修会 [1回、11名]

プライバシーマーク取得に関する研修会 (本所にて) [5回、348名]

(県南センターにて) [2回、91名]

新人職員受入準備研修会 [1回、39名]

セカンドライフ研修会 [1回、20名]

職員研修発表会

平成23年度新人事前研修会 [1回、18名]

職員全体研修会 [1回、315名]

■外部研修会へ参加

【主催別内訳】

財団法人予防医学事業中央会関係研修会 [2回、3名]

公益財団法人結核予防会関係研修会 [3回、4名]

公益社団法人全国労働衛生団体連合会関係研修会 [7回、18名]

社団法人日本作業環境測定協会関係研修会 [4回、6名]

その他 [108回、191名]

【職種別内訳】

医師関係 [4回、4名]

保健師関係	[14回、 16名]
臨床検査技師関係	[32回、 47名]
放射線技師関係	[17回、 34名]
作業環境測定士関係	[6回、 8名]
看護師関係	[5回、 8名]
栄養士関係	[1回、 1名]
事務関係	[57回、104名]

7. 研究発表等

[開催日、開催地]

- 作業環境測定事例研究発表会 [平成22年6月18日、宮城県]
「ホルムアルデヒド測定事例に学ぶ」 小山 正 範
- 第24回日本乳腺甲状腺超音波診断会議 [平成22年4月17～18日、仙台市]
「3法併用検診において超音波検査のみで指摘できた乳がん症例の報告」 三 浦 由 美
「乳房超音波検診の要精査基準に関する検討」 相 馬 明 美
- 第99回岩手腹部超音波研究会 [平成22年10月22日、盛岡市]
「検診USで発見された一症例」 佐 藤 務
- アメリカ臨床化学会（AACC） [平成22年7月25～29日、アナハイム]
『The association of LDL-cholesterol and metabolic syndrome with chronic kidney disease based on estimated glomerular filtration rate in Japanese males』 折 坂 美知子
- 第57回日本臨床検査医学会学術集会 [平成22年9月9～12日、東京都]
『慢性腎臓病に対するLDL-Cとメタボリックシンドロームの関連－日本人男性における検討』 折 坂 美知子
- 第13回岩手県放射線技師会学術大会 [平成22年11月30日、盛岡市]
「頭低位腹臥位撮影における圧迫マクラの使用効果の検討」 久保田 憲 宏
- 日本放射線技術学会東北部会第48回学術大会 [平成22年11月13～14日、弘前市]
「経時差分技術を用いた検診システムの運用」 藤 原 幸 治
- 日本超音波検査学会第13回東北地方会 [平成22年11月14日、仙台市]
「健診腹部USが発見契機となった右縦隔神経鞘腫の一例」 佐 藤 務
- 第45回予防医学研究会議 [平成23年2月17～18日、神戸市]
「一日人間ドックオプションとして導入したホルター心電図について（第2報）」 高 橋 恵 美
「頸動脈超音波検査と脳MRI所見の関連性についての検討」 工 藤 真 紀
「EXCELによる庶務管理システムVer.2010」 金田一 徹
「腹臥位頭低位撮影における圧迫マクラの使用効果の検討」 久保田 憲 弘
「学校心臓検診で確認された心房中隔欠損症の検討」 米 澤 慎 悦
- 第21回日本疫学学会学術集会 [平成23年1月21～22日、札幌市]
「LDL-C/HDL-C比と高感度CRPの層別化による中年男性心筋梗塞発症リスク評価の試み」 斗 成 陽 子

8. 事業年報の発行

平成21年度事業年報Vol.39の発行 2,050部

9. 各種表彰の受賞

■予防医学事業中央会関係

平成22年10月22日、平成22年度予防医学事業推進全国大会の席上で、高島研二、金田一徹が奨励賞を受賞

■社団法人全国労働衛生団体連合会関係

平成22年11月29日、全衛連平成22年度運営研究協議会の席上で朴田敦志が功績賞を、阿部千恵子、松谷基広が奨励賞を受賞

■その他の団体関係

平成22年10月22日、第51回東北医学検査学会席上で川原田司が功労賞を受賞

平成22年2月19日、日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会第43回放射線部会学術大会の席上で優秀特別技術賞－バリウム造影画像－を受賞

10. 予防医学事業中央会にかかわる事業

[開催日、開催地、参加人数]

■各種会議・研修会等へ参加

平成22年度予防医学事業推進全国大会

[平成22年10月21日、長崎市、5名]

平成22年度予防医学事業推進東北ブロック会議

[平成22年10月29日、山形市、5名]

平成22年度予防医学技術研究会議

[平成23年2月16～18日、神戸市、8名]

平成22年度全国業務研修会

[平成23年2月2～3日、高崎市、2名]

■本部主催の各種委員会・協議会へ参加